

# 被災地からの避難児童の健康を守る



新潟県新発田市立外ヶ輪小学校教諭 高澤 元

## はじめに

平成23年3月に発生した東日本大震災から、もうすぐ4年という月日がたとうとしています。いまだに避難を余儀なくされ、故郷に戻ることができない方々が多数おられるのが現状です。

本校での福島からの避難児童の受け入れは、平成23年4月より行っております。23年度は37名の転入学がありました。その後、福島に戻った児童や兄弟の入学等があり、24年度は29名、25年度は22名、26年度は19名と推移してきました。今年度の避難児童の学年の内訳は、1年生5名、2年生0名、3年生3名、4年生3名、5年生4名、6年生4名、男女の内訳は男子8名、女子11名となっています。

## 1. 現状と課題

4年前の受け入れ当時は、落ち着きがなく、学習に集中できない児童も見受けられましたが、今ではすっかり落ち着いて学習に取り組むことができています。現在、避難児童は元気に毎日の学校生活を送っています。

しかし、なかには生まれ住み慣れた故郷を離れた喪失感を感じていたり、家族構成の変化により、寂しさを感じていたりする児童もいるのではないかと推察されます。

私たち教職員は医師ではないので、身体面の治療を行うことはできません。一方、精神面に関しては治療とまではいかなくとも、不安を和らげ、支えになることはできると考えています。その部分で役立てることはないかと模索し、取り組んできました。

## 2. 課題解決に向けた取り組み

### ◆共感的な理解に基づいた関係づくりの推進

避難児童を受け入れるにあたり、最も力を入れてきたことは共感的理解に基づいた児童・家庭と

の関係づくりです。最初の受け入れ時には、全職員が始業式前日の休日に避難児童の保護者全員とじっくりと面談を行いました。被害の状況や家族構成、現状で困っていること、そして本校に転学するにあたり不安に感じていることや要望などに共感的理解を示し、まずは話を聞くことから始めました。このことにより、保護者との良好な人間関係を築くことができました。そして、得られた情報を全職員が共通理解し、日々の教育活動にあたってきました。

毎年4月には、避難児童の保護者に対してアンケートを実施し、家族構成の変化や今後の展望・進学なども含めて情報を共有するようにしています。さらに、定期的なカウンセリングの案内を出し、必要とされる方には専門のカウンセラーを紹介し、カウンセリングを実施しています。

### ◆各学級担任によるケア

目の前の児童に対して、日々目を配り、ケアしているのは各学級担任です。例えば、毎日の宿題で日記指導を行っています。日記のやり取りのなかから得た情報を通してケアをしています。このように、避難児童の気持ちの変化の見取りを、担任による日常の会話や行動観察等で行っています。

避難児童は学校行事にも積極的に参加し、たいへん頼もしい活躍をしています。高学年の児童は運動会の応援リーダーや地元の祭りの木遣りリーダーに立候補し、見事にその役割を果たしてくれました。そのような活動で各担任がサポートし、具体的に称賛しながら、成功体験を積み上げていくことにより1人ひとりの自己肯定感を高め、成就感を味わわせるように努めています。

日常の学校生活では、学習や遊びを思いっきり謳歌していますが、子どもたちの生活にはトラブルがつきものであり、それを乗り越えて成長していくものです。時にはけんかをすることもあります。そのような状況でも、避難してきたことに対

する誹謗中傷のような人権侵害にかかわる言動を見逃すことのないよう常にアンテナを張り、避難児童が安心して学校生活を送ることができるように指導にあたっています。

### ◆児童の心的ストレスへの対応

一般に、精神的な不安から身体症状が見られるケースがあるといわれていますが、学校でそれに近い様子が見られた場合は、学級担任と養護教諭を中心に、職員間はもちろん、保護者と連絡を密にして、早期から児童の心身のケアができるように努めています。また、東日本大震災を契機に、本校では系統的・組織的に防災教育を行っています。防災教育は「もしも」のときのために命を守る方法を知る、とても大切な学習です。学習していくなかで地震や津波の動画、建物が倒壊している画像などを扱うことがあるので、避難児童1人ひとりの発達段階や被災時の状況などを踏まえた対応をする必要があります。そこで、保護者に事前に配慮すべきことがあるかどうか、またどのような配慮が必要かアンケートをとって個々に対応しています。そうすることで、映像や画像を見ることにより引き起こされるであろう心的外傷後ストレス障害を防ぐために細心の配慮をして防災教育にあたっています。

### ◆避難児童担当職員の活用を図った取り組み

本校には避難児童担当職員を配置しています。避難児童に関する諸活動の連絡・調整および避難児童や保護者に関する情報を集約し、担任と連携して、保護者と共通理解を図りながら指導にあたっています。避難児童担当職員は、複数学年の授業に出たり委員会やクラブの指導を担当したりする、いちばん避難児童と多くかかわる職員です。得られた情報をもとに、1人ひとりが自己肯定感を高められるように適切な配慮・対応をして教育活動に取り組んでいます。

### ◆福島からの派遣職員との連携

主な進学先である中学校には福島から県外派遣されている教員がおり、近隣の小中学校へ定期的に訪問し、避難児童たちへの支援活動をしています。その県外派遣職員から福島の様子がわかる「福島だより」の配付が定期的に行われていたり、年に1回、避難児童の保護者を対象として懇談会を設定し、福島の今の情報や日ごろの悩みなどを共有する場を設けたりしています。本校の避難児



▲応援団として全校をリード!

▼楽しそうに菜づくりに取り組む



童担当職員も出席し、保護者どうしの生の声を受け止めて、支援に役立てています。

### ◆民間・地域との連携

地域には被災地を支援するボランティア団体があり、その活動の仲介も行っています。例えば、新発田市の東日本大震災復興支援有志の会は「避難先で生活する子どもたちの元気な声を届けよう」という趣旨で様々な活動を行っています。今年度は避難児童の手づくりによる菜(しきり)を被災地に届ける活動が行われました。福島避難児童担当職員を仲介して、希望者が意欲的に活動に取り組みました。新発田の伝統工芸を学び、それを福島に届けることにより、福島の方にも避難児童の元気な様子や被災地を応援している声が伝えられています。また、この活動では他校に避難している児童と一緒に楽しく交流している姿がみられました。新発田の地でふるさととのつながりがもてるということは、たいへん喜ばしいことだと感じています。

### おわりに

私たち避難児童を受け入れている学校の教職員ができることは、これからの日本の社会を担う人材として、目の前の避難児童を精一杯鍛え、育てることにほかなりません。本校を卒業する児童は、新発田の中学校へ進学する児童が多いのが現状です。小中で連携を図りながら、今後の中学校生活や、その先の人生がすばらしいものになるよう、全校体制で支え、授業の充実を図っています。

(たかさわ・はじめ)

# 学校・家庭・地域社会の つながりと子どもの健康

東京都教職員研修センター  
研修部専門教育向上課統括指導主事

田村 砂弥香



## はじめに

都市化、少子高齢化、情報化などによる社会環境や生活環境の急激な変化を受けて、子どもの健康に関する問題は多様化・複雑化しています。生活習慣の乱れによる体調不良、メンタルヘルスの問題、アレルギー疾患などが増加し、学校は多岐にわたる対応を求められています。

もとより、子どもの健康管理は主として家庭を中心に行われるものですが、家庭の状況も多様化し、必ずしも健康な発育・発達が保障されない環境で生活している子どももいます。さらに、児童虐待対応相談件数は年々増加し、深刻な社会問題となっています。この背景には、核家族化が進むなかで、子育てに悩む保護者が孤立している状況もうかがえます。

これらの健康課題を解決するには、学校保健の取り組みだけでは困難です。子どもを取り巻く学校・家庭・地域社会が連携し、子どもの健康を守り育てるセーフティネットを確かなものにしていく必要があります。

## 1. 社会関係資本とは

近年、社会や地域における人々のつながりや結びつきを表す概念として、社会関係資本が注目されています。

社会関係資本とは、平たくいえば、社会や組織における人と人との信頼関係や協同行動を指します。社会関係資本そのものは目には見えませんが、学者が研究対象としてとらえる以前から「絆」に象徴される社会関係資本やコミュニティの特性が、市場を通さずに人々の行動に影響を与えることは広く認められてきました。東日本大震災の被災地においても、学校と地域住民が連携した取り組みを進めている地域では避難所運営が円滑に進められるなど、日ごろから蓄積されたつながりや支え合いの重要性があらためて見直されています。

第2期教育振興基本計画では、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」が4つの基本的方向性のひとつにすえられ、「持続可能で活力ある社会は、個々人の能力を高めることのみならず、多様なコミュニティにおける様々な人々のつながりや支え合い（社会関係資本）を形成することにより実現されるものである」と示されています。

社会関係資本が与える影響については、政治学、経済学など幅広い分野で研究が行われていますが、なかでも健康は社会関係資本とのかかわりが最も頻繁に研究されている分野のひとつです。社会関係資本が健康に与える影響を与えることは、多数の先行研究が明らかにしています。しかし、これまでの研究の多くは成人を対象としているため、社会関係資本が子どもの健康に与える影響は明らかになっていませんでした。そこで私は、子どもの健康こそ、子どもを取り巻く社会関係資本と深いかかわりがあり、そこに子どもの健康づくりに有効な手だてを見出すヒントがあるのではないかと考えて、調査研究を実施しました。

## 2. 児童の健康と学校保健に関する調査

平成25年10～12月に、東京都内の公立小学校計50校において、教職員、6年生児童、6年生の児童をもつ保護者を対象とし、質問紙を用いて調査を実施しました。

### (1) 主観的健康

児童、保護者、教職員の健康度を表す指標として、以下に示す10項目の質問から、主観的健康を測定しました。

#### 【主観的健康の質問項目】

- 1 頭やお腹が痛くなることがある。
- 2 なんとなく体がだるいことがある。
- 3 理由もなくイライラすることがある。
- 4 気持ちが落ち込むことがある。
- 5 自分の心と体は健康だと思う。

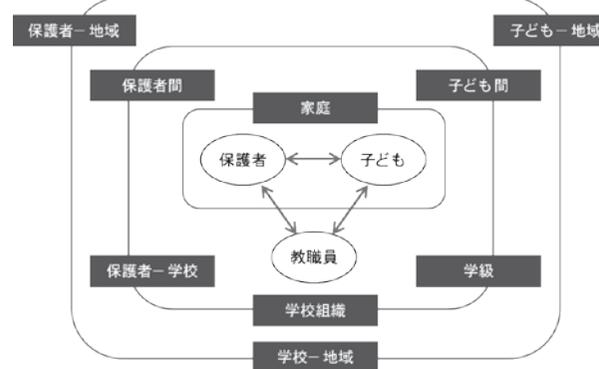
- 6 朝ごはんを食べないことがある。
- 7 健康に過ごすために、ふだん気をつけていることがある。
- 8 病気を予防する方法を実行している。
- 9 健康でいることは大切だと思う。
- 10 将来健康に過ごせるようにこれからも努力したい。

これらの質問項目について因子分析を実施したところ、質問1～5から構成される【現在の健康】、そして質問7～10から構成される【意識・実践】の2つの因子構造があることがわかりました。

### (2) 社会関係資本

学校における社会関係資本について、露口(2013)は、【家庭】【子ども間】【学級】【子ども-地域】【学校組織】【学校-地域】【保護者-学校】【保護者間】【保護者-地域】の9つの次元に整理した測定モデル<sup>1)</sup>を開発しています(図1)。

【図1】校区における社会関係資本の次元(測定モデル)



本調査においても、この測定モデルをベースとし、社会関係資本の各次元について5～10項目の質問項目を作成し、児童、教職員、保護者の回答から、社会関係資本の状況について測定・分析を行いました。

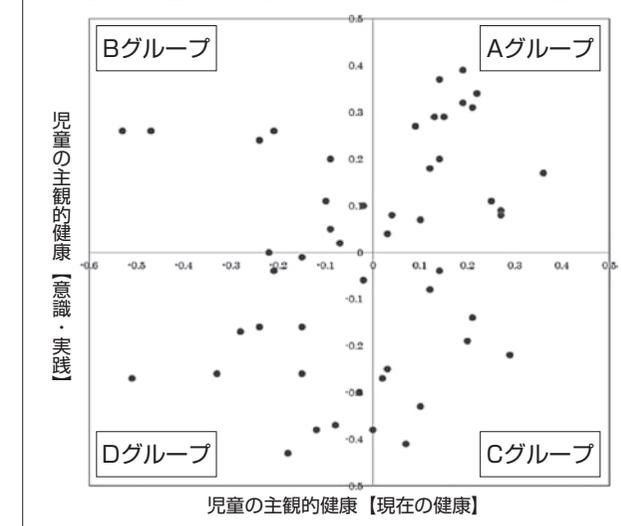
## 3. 児童の主観的健康と社会関係資本の実態

### (1) 児童の主観的健康に関する概観

児童の主観的健康と、児童を取り巻く社会関係資本にどのような関連があるのか把握するために、相関分析を行いました。

その結果、児童の主観的健康は、児童が直接関与する【家庭】【子ども間】【学級】【子ども-地域】

【図2】校区における社会関係資本の次元(散布図)



【図3】児童の主観的健康に基づく学校分類

		児童の主観的健康【現在の健康】	
		平均以上	平均未満
児童の主観的健康【意識・実践】	平均以上	<b>【Aグループ】</b> 現在の健康、意識・実践ともに平均以上 17校 (34.0%)	<b>【Bグループ】</b> 現在の健康は平均未満だが、意識・実践は平均以上 10校 (20.0%)
	平均未満	<b>【Cグループ】</b> 現在の健康は平均以上だが、意識・実践は平均未満 10校 (20.0%)	<b>【Dグループ】</b> 現在の健康、意識・実践ともに平均未満 13校 (26.0%)

の社会関係資本と正の相関関係があることが認められました。因子別に比較すると、【現在の健康】は、【子ども間】の社会関係資本と最も強い相関をもっており、【意識・実践】は、【家庭】の社会関係資本との相関が最も強いことがわかりました。

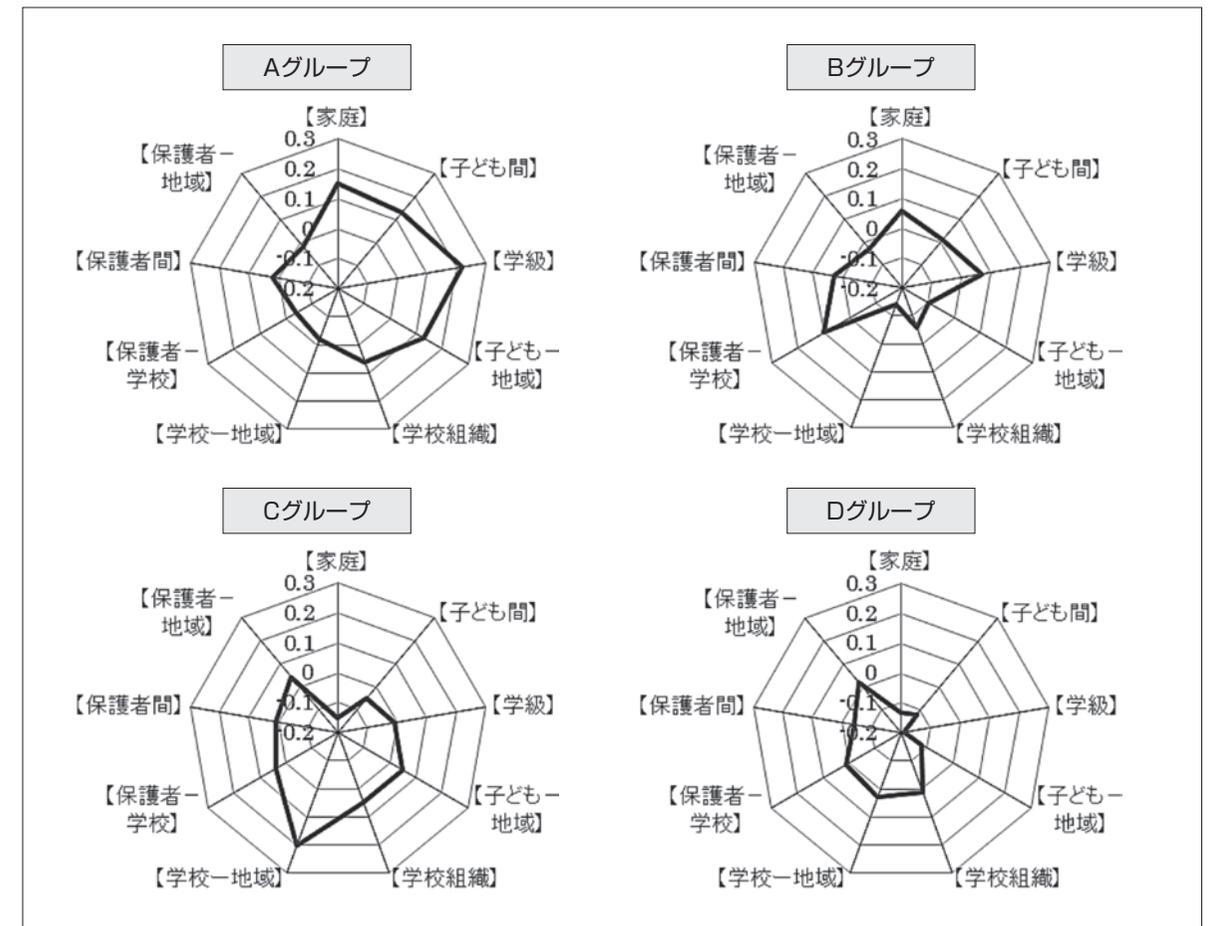
また、学校ごとに児童の主観的健康【現在の健康】と【意識・実践】の平均値を算出し、50校を散布図にプロットしたところ、図2のような結果になりました。この散布図に基づいて、50校を4象限に分類した結果は、図3に示すとおりです。

### (2) 児童を取り巻く社会関係資本に関する概観

図3に示した学校分類ごとの社会関係資本の概況を把握するために、各次元の平均値をレーダーチャートで表しました(図4)。

児童の主観的健康【現在の健康】【意識・実践】がともに平均以上であるAグループの学校は、児童が直接関与する【家庭】【子ども間】【学級】【子

【図4】 学校分類ごとの社会関係資本の概況



ども-地域】がいずれも平均を上回り、他のグループと比較して有意に高くなっています。

【意識・実践】は平均以上であるものの【現在の健康】は平均を下回っているBグループの学校は、児童や保護者が直接かかわる社会関係資本は低くはありませんが、【学校組織】【学校-地域】が平均を下回っています。教職員どうしのつながりや学校の組織体制に関する課題が、児童の現在の健康に影響を及ぼしている可能性があります。

【現在の健康】は平均以上ですが【意識・実践】が平均を下回っているCグループの学校は、【家庭】や【子ども間】など、児童に最も身近な社会関係資本が低い傾向が見られます。しかし一方で、【学校-地域】【保護者-学校】【学校組織】は平均を上回っており、これらの社会関係資本が補完する形で児童の現在の健康を保持している可能性があります。

【現在の健康】【意識・実践】がともに平均を下回っているDグループの学校は、【家庭】【子ども間】【学級】【子ども-地域】がいずれも他のグループと比較して顕著に低いことがわかります。他の社会関係資本もこれを補完するほどの強みをもっているとはいえない状況です。

### (3) 教職員の主観的健康と社会関係資本の状況

次に、教職員の主観的健康と社会関係資本とのかかわりを調べたところ、【現在の健康】【意識・実践】のいずれも【学校組織】【学校-地域】の社会関係資本と有意に正の相関関係が見られました。

教職員の健康状態が、学校組織のあり方や地域との連携・協力が深くかかわっていることがわかります。あわせて回帰分析を実施したところ、教職員の【現在の健康】に最も大きなプラス効果をもたらしているのは「所属校はあなたが安心して働くことのできる職場である」の項目でした。教職員の健康実感には、職場環境のあり方が深くかかわっていることがうかがえます。

### (4) 保護者の主観的健康と社会関係資本の状況

そして、保護者の主観的健康と社会関係資本とのかかわりを調べたところ、【現在の健康】【意識・実践】のいずれも【保護者-学校】【保護者間】【保護者-地域】と有意な相関関係が見られました。

学校とのかかわりや保護者どうしのかかわりは、保護者の主観的健康が高いほど、充実している正の相関関係にあります。しかし一方で、【保護者

-地域】は、保護者の【現在の健康】と有意に負の相関関係があることがわかりました。保護者の現在の健康状態がすぐれないために地域の助けを必要としている場合や、あるいは地域とのかかわりがストレスとなって保護者の健康状態に負の影響をもたらしている場合の双方が考えられます。

### (5) 児童・教職員・保護者の主観的健康

児童・教職員・保護者それぞれの主観的健康についてかかわりを調べたところ、児童の主観的健康【意識・実践】と保護者の主観的健康【意識・実践】には、正の相関関係が見られました。保護者の意識・実践が、家庭生活を通じて児童の意識・実践にも影響しているものと考えられます。

また、教職員と保護者の主観的健康についても、【現在の健康】【意識・実践】ともに、正の相関関係が見られました。学校を媒体として、教職員と保護者の健康状態が相互に影響し合っていることがうかがえます。

一方で、教職員と児童の主観的健康には、相関関係は認められませんでした。

## 4. 児童の主観的健康の決定要因

それでは、社会関係資本と児童の主観的健康との因果関係はどのようになっているのでしょうか。

分析の結果、児童の主観的健康【現在の健康】には性別（男子）と【子ども間】の社会関係資本が有意なプラス効果をもっており、児童の主観的健康【意識・実践】には、【家庭】【子ども間】【学級】【子ども-地域】がいずれも有意にプラス効果をもってることが判明しました。

児童どうしのかかわりが良好であることが、現在の健康実感を高めるとともに、男子のほうが、【現在の健康】が高い傾向にあることがわかります。しかし、【意識・実践】には男女差は見られず、社会関係資本の多様な次元が複合的によい影響をもたらしていることがわかります。

## 5. 結論

今回の調査研究から、次のようなことが明らかになりました。

- 児童の主観的健康は、【家庭】【子ども間】【学級】【子ども-地域】の社会関係資本のありようと深くかかわっており、これらの社会関係資本がプラスの効果をもたらしている。

- 児童の主観的健康のうち、【現在の健康】については、男子であることと、【子ども間】の社会関係資本が有意にプラス効果を与えている。
- 児童の主観的健康のうち、【意識・実践】については、【家庭】【子ども間】【学級】【子ども-地域】の社会関係資本が有意にプラス効果を与えており、なかでも【家庭】の効果が最も大きい。
- 主観的健康と社会関係資本との相関関係は、教職員・保護者においても同様に認められる。
- 児童と保護者の主観的健康【意識・実践】には、正の相関関係が見られる。
- 児童と教職員の主観的健康には相関関係が認められないが、教職員と保護者の主観的健康には正の相関関係が見られる。

### おわりに

児童を取り巻く社会関係資本が児童の健康にプラス効果をもたらすことは、これまで経験則として感じていたことではありますが、今回の調査で統計的に明らかにすることができました。

児童の健康を決定する要因は多様であり、今回の調査項目だけでは到底説明しきれるものではありません。また、社会関係資本は人と人とのつながりを主体としているために、常によい効果をもたらすとも限りません。しかし、今回の調査や、調査に基づくヒアリングを通して、様々な条件のもとでも学校保健活動を工夫して子どもの健康を保持増進している学校や、地域の強みを生かして子どもの健康を守り育てている学校も見受けられました。社会関係資本が一概に子どもの健康問題を解決する特効薬にはならないとしても、学校保健政策や学校経営戦略を練るうえで活用できるヒントを多分に秘めています。

子どもの健康づくりが好循環を生み、教職員、保護者ともに良好な健康実感のもとに教育活動が展開される学校を期待しています。

(たむら・さやか)

1) 露口健司 (2013) 『小学校区においてソーシャル・キャピタルを醸成する教育政策の探究～第1年次調査のまとめ～』 政策研究大学院大学

5年生●けがの防止

健康な生活を営む資質や能力を  
身につけた子どもを求めて

—養護教諭と連携した体験的活動を取り入れた学習過程の工夫を通して—



福岡県福岡市立志賀島小学校教諭 田中 盛幸

はじめに

昨年度まで勤務していた福岡市立千早小学校は、福岡市東部に位置し、児童数660人、学級数20(特支1)の中規模校であり、昨年度創立50周年を迎えた学校である。

児童は、体を動かすことが好きで、休み時間も活発に外遊びをする児童が多い反面、運動やスポーツが習慣となっていない児童もみられ、いわゆる二極化の傾向にある。そこで、従来から取り組んできた、運動の楽しさを味わう体育科の研究に加え、自分の健康づくりに関心をもち、より健康的な生活を営む資質や能力を育成していく研究も23年度より進めてきている。

ここでは、養護教諭と連携して取り組んだ5年保健領域「けがの防止」の実践報告を紹介する。

1. 児童の実態を把握する

児童のけがの状況などの実態を把握するため、アンケート調査を行った。「保健の学習が好き」と答える児童が約70%いて、その理由として、「自分のためになる」「自分の体のことがわかる」「健康な生活を送れるようになる」などと答えている。この学習を通して、自分の日常を振り返り、実践しようとする姿や生活を改善していこうとする姿がみられるようになった。しかしその反面、5年生になって校内でけがをした児童が半数以上いるなど、学習内容が日常生活につながっているとは言いがたい実態もみえてきた。

そこで、在校する養護教諭と連携し、本校の実態から「けがの防止」のしかたを考え、児童の日常生活へとつなげやすい授業展開を仕組んだ。

2. 研究の実際

①体験的活動を取り入れた学習過程の設定

本単元の学習で、様々な体験的活動ができるよう単元の構成を工夫して取り組んだ。

まず、身近な教室から校舎内、学校敷地内、そして、校区・東区内へと「けが」をした範囲を徐々に広めていくことにより、日常生活につながりやすくなるよう単元を構成した。

また、養護教諭による話やけがの手当のしかた、不審者対応のロールプレイングなど、体験的活動を1単位時間に1つずつ取り入れて行った。

これらの単元構成の工夫により、「危険を予測」し、「安全に行動する」ことや「けがをしたら正しい判断とすばやい手当」をしていくことをわかりやすく学ぶことができた。

②学習内容を日常化につなげる支援の工夫

【ペアによるけがの手当の実習】

校内で起きやすいけがの種類をいくつか提示し、○×クイズで正しい手当のしかたを判断させた。その後、養護教諭による手当のしかたの実演を見てから、児童たちで実習を行った。児童もペアで演習することで、正しいけがの手当のしかたを学ぶだけでなく、コミュニケーションを図りながら取り組むよさも感じることができていた。

【不審者対応のロールプレイング】

学習内容を校区に広げた際、自分の安全を守るためには、不審者対応も重要であることを学習した。その後、「知らない人に車から誘われたとき」「公園で誘われたとき」などの場面設定でロールプレイングを行った。児童は、実演をすることで、「不審者からの誘いには、絶対に断る強い意志をもつ」「早くその場を離れる」という新たな課題をつかむことにつながった。

3. 実践を終えての成果と課題

「けが」をした場所を教室から校舎内、学校敷地内、そして校区へと徐々に広めていくことは、児童の振り返りがしやすく、危険を予測する判断や安全な行動を実感していくうえでも有効であった。また、養護教諭と連携して学習を進めていく

■「けがの防止」単元計画〈全5時間〉

時	学習活動	主な支援(◆)と評価(*)
1	<p>めあて…千早小で起こるけがの原因を考えよう。</p> <p>◇校内でけがをした経験などを話し合う。 ◇校内のどこでどんなけがが多く起こるのかを考え、養護教諭と確かめていく。→<b>体験的活動</b> ◇けがが起きる原因を話し合う。 ◇まとめ…けがは「人の行動とまわりの環境」によって起きるので、「危険を予測」することが大切である。</p>	<p>◆1学期のクラスのけがの状況のグラフを示す。 ◆校舎配置地図を活用して、校内のけがの状況を養護教諭と確認していく。 *校内のけがと危険の課題を見つけ、望ましい行動を選択できる。(思考・判断)</p>
2	<p>めあて…危険な場面を探して、どんな事故やけがが起こるかを予測しよう。</p> <p>◇資料や校舎配置地図から、危険が予測できる場面について調べる。→<b>体験的活動</b> ◇予測されるけがや事故の防ぎ方を考える。 ◇まとめ…けがを防ぐには「危険を予測」し、「安全に行動」することが大切である。</p>	<p>◆グループで、様々な危険な場所や場面を話し合わせる。 ◆危険な場面が隠れていることにも気づかせる。 *けがや事故が起きそうな場面を意欲的に探している。(関心・意欲・態度)</p>
3	<p>めあて…校内で多いけがについて、正しい手当のしかたを身につけよう。</p> <p>◇正しい手当のしかたを、養護教諭とクイズ形式で確かめる。 ◇友達と正しいけがの手当のしかたを実演する。→<b>体験的活動</b> ◇まとめ…けがをしたら、正しい判断をしてすばやい手当が大切である。</p>	<p>◆けがの手当を自分でできるか考えさせる。 ◆手当のしかたのポイントを掲示しておく。 *けがに応じた正しい手当のしかたについて理解している。(知識・理解)</p>
4	<p>めあて…不審者から誘われたとき、はっきりとした断り方を考えよう。</p> <p>◇不審者から誘われたときの断り方を、友達や学生サポーターとロールプレイングをする。→<b>体験的活動</b> ◇はっきりと断るためには何が必要なかを考える。 ◇まとめ…不審者の誘いには、絶対に断る強い意志をもつことが大切である。</p>	<p>◆不審者は外見では判断できないことを知らせる。 ◆「いかのおすし」の合言葉を確認する。 *不審者から自分が誘われたとき、はっきりとした断り方を考えている。(思考・判断)</p>
5	<p>めあて…学校や地域ではどのような安全な環境づくりをしているか調べよう。</p> <p>◇校内や地域には、交通事故を防ぐための安全にかかわる様々な工夫が整えられていることを知る。→<b>体験的活動</b> ◇今後の生活で気をつけたいことを発表し合う。 ◇まとめ…学校や地域では、交通事故やけがを防ぐために様々な危険を予測し、安全に過ごすための対策が取られている。</p>	<p>◆掲示物や信号・標識など、交通事故を防ぐ安全な環境が整えられていることについて知らせる。 *自分は安全な生活を送っているか、振り返りながら発表している。(態度)</p>



▲T.Tによる授業風景



▲不審者対応のロールプレイング



▲けがの手当○×クイズ(部分)

ことで、児童がけがをした際の正しいけがの手当のしかたを知ることができ、とても有効であった。

さらに、学習の中にロールプレイングなどの体験的活動を取り入れたことで、児童が学んだ知識を生かして、自分の言葉や考えで解決につなげていくのに有効であった。

保健の学習は、児童がつかんだ課題を、在校す

る養護教諭だけでなく家庭や地域とも連携しながら継続的に日常生活につなげていく必要がある。

そのためにも、3年生から始まる保健学習のカリキュラムの系統性を見直したり、養護教諭や学校薬剤師など専門的知識をもつ人材を活用した学習過程をさらに開発したりしていく必要がある。

(たなか・もりゆき)

・本稿は前任校、福岡市立千早小学校での実践です。

6年生●病気の予防

健康な生活を実践する力を伸ばす  
保健学習のカリキュラム開発



東京都練馬区立光が丘夏の雲小学校主幹教諭 吉田 光男

はじめに

本実践は、平成24年度に東京都教員研究生として、児童の健康な生活を実践する力を伸ばす「病気の予防」(6年)のカリキュラムを開発し、そして、多くの先生方が活用できるように一般化を図ることをねらいとして行った研究によるものです。

1. カリキュラム開発

健康な生活を実践する力、すなわち、実践するための知識、知識を活用する思考力・判断力、実践への意欲を伸ばすことが必要であると考え、以下の工夫を行いました。

【実践するための知識を確実に習得させる工夫】

映像や画像、実験を取り入れたICT教材を活用し、習得すべき知識の科学的根拠を明らかにし、児童の実感を伴った理解を図るようにしました。

【知識を活用する思考力・判断力を伸ばす工夫】

ICT教材を活用して、知識を効率的に習得できるような指導を行うことで時間を生み出し、ブレインストーミング、ケーススタディ、意見交換会、意見文を書くなどの知識を活用して課題解決を図る学習活動を毎時間取り入れ、思考力・判断力を伸ばすようにしました。

【健康な生活を実践する意欲を高める工夫】

東京都教職員研修センターの「子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料」を活用し、毎時間、学習の初めに児童の意見や実践を発表し合う場を設定し、お互いのよさを認め合うようにしました。

また、児童の授業の感想をもとに保健学習通信を作成し、学習の様子を家庭に知らせるようにしました。そして、学習に関して保護者からも意見がもらえるような学習カードを工夫し、その意見も学習の中で活用するようにしました。

そして、一般化を図るために、前記の工夫を取り入れ、以下の3つを開発しました。

【PowerPointを活用したICT教材】

クリックしていくだけで、容易に授業が展開できるように作成してあります。教室で行うことが困難な実験や実際に取材することが難しい保健所や給食センターの映像、画像等も入っています。

【ガイドブック型学習指導計画】

ICT教材を有効に活用するために、指導計画の右の欄にスライドを挿入しています。どのスライドでどんな学習活動を行うのがひと目でわかるようになっています。

【生活実践に結びつける学習カード】

保健の授業の中だけで完結する学習カードではなく、学習後の実践に結びつけ、保護者との連携を図ることができるように作成しました。

2. 検証授業の様子

具体的な授業の様子を5時間目「生活習慣病の予防」で説明します。

【実践するための知識を確実に習得させる工夫】

ICT教材を活用して、血管の病気の図を提示し、塩分や糖分のとりすぎ、運動不足、睡眠不足などのよくない生活の仕方が心臓病や脳卒中につながることを科学的根拠を明示し、実感を伴った理解を促しました。そして、知識と実践を結びつけるために、生活習慣病を予防するには、今から健康な生活習慣を身につける必要があることを指導しました。

【知識を活用する力を伸ばす工夫】

次に、食事、運動、休養・睡眠を振り返る設問と「生活の仕方を調べようカード」を用いて、習得した知識を活用して生活を振り返り、課題を発見し、目標を立てました。

そして、課題別グループに分かれ、目標を達成するための具体的な方法を話し合いました。

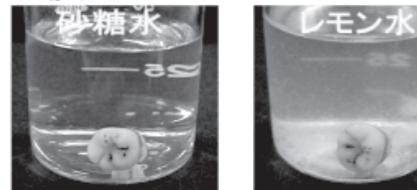
食事グループからは「おやつをお菓子にしない」「ジュースではなく麦茶を飲む」、運動グルー

ICT=Information and Communication Technology

むし歯の起こる原因を考えましょう!

【写真1・2】ICT教材のスライド例

問題 歯を砂糖水とレモン水の中に入れて10日後、どちらがたくさんとけているでしょうか?



予想と理由を書きましょう。

子供たちの健康を守る



赤ちゃんの準備教室  
生まれてくる赤ちゃんのために勉強します。

こんにちは赤ちゃん事業  
生後4か月までに、全ての家庭を訪問します。

プからは「予定を立てて運動する時間をつくる」「休み時間は誘い合って外に出る」、休養・睡眠グループからは「宿題を早くすませる」「テレビやゲームの時間を決める」などの方法が出されました。

それらの中から、自分に合った方法を選び、授業を終了しました。

最後に、実践する内容を保護者に伝えること、1週間実践を行った後、保護者にも学習カードに記入してもらってくることを宿題としました。

【健康な生活を実践する意欲を高める工夫】

次時の初めに、保健学習通信を活用し、「生活習慣病の予防」の学習に対する「子どもから大人までの積み重ねで生活習慣病になるので、気をつけていきたい」「実践はたいへんそうだけど、それは将来、病気にならないためのパスポートだと感じた」などの意見を肯定的に認め合いました。

また、「朝、すっきり起きられるようになってよかった」「運動をしたら、ご飯がおいしく食べられた」など、1週間の実践を行った結果について発表し合い、みんなで認め合いました。

さらに、保護者からの「食べ物や体をつくる基本だということを実践していいね」「自分で早起きできるようになったのは、すごい。中学校に行っても続けよう」などの励ましや意見を紹介し、これからも健康な生活を実践していこうという意欲を高めることができました。

3. 児童の変容

こうした学習を8時間行った結果、以下のような児童の変容がみられました。

【実践するための知識を確実に習得させる工夫】

学習後の児童の、日本学校保健会によって行われた全国調査の知識の定着を図る問題に対する正答率平均は96.6%でした。これは、全国平均67.6%



【写真3・4】授業の様子

に比べて良好であるといえます。

【知識を活用する力を伸ばす工夫】

学習カードの記述について、第1時では知識を活用して生活を見直したり目標を立てたりする児童は8名でしたが、第8時には27名になりました。そして、記述した課題や目標も、より具体的な実践可能なものとなりました。

【健康な生活を実践する意欲を高める工夫】

学習後の意識調査では、すべての児童が「病気の予防」の学習はとても大切だと回答し、88%の児童が学習内容を生活の中で「とても活用したい」、12%の児童が「活用したい」と回答しました。

【図1】児童の生活実践の変容(4点満点)

項目	授業前	授業後
おやつをとりすぎない	2.79	3.19
進んで運動をする	2.61	3.10
早寝早起きをする	2.69	3.00

図1の調査結果からは、児童の生活実践にも改善がみられたことがわかります。

おわりに

この研究をもとに、平成25,26年をかけて、東京都小学校体育研究会保健領域部会では、小学校3年から6年までの保健領域全単元のカリキュラム開発を行いました。実際に使っていただいた先生方からは「学習内容が明確で指導しやすい」「児童が意欲的に学習に取り組む」「保護者からも好評」「PowerPointなので工夫しやすい」などの声をいただいています。

開発教材を使ってみたいとお考えの先生は、東京都小学校体育研究会保健領域部会までメールでご連絡ください。syoutaikenhoken@yahoo.co.jp

(よしだ・みつお)

好評発売中！

東京学芸大学教授 渡邊正樹 編著

こらぶん  
エデュ

今、はじめよう！

# 新しい 防災教育

子どもと教師の  
危険予測・回避能力  
を育てる

東京学芸大学教授  
編著 渡邊正樹

教師  
必携

防災教育・防災管理  
これ1冊で全てがわかる！  
「児童が学校で被災したら、  
待機させますか？ 下校させますか？」  
光文書院

B5判・112ページ 定価：本体 1,429円＋税  
ISBN978-4-7706-1059-1

## 犯罪被害から 身を守る！

## 自然災害から 身を守る！

東京学芸大学教授 渡邊正樹 著

こらぶん  
エデュ

ワークシートで身につける！

# 子どもの 危険予測・回避能力



東京学芸大学教授  
渡邊正樹 著

学校 家庭 地域 で  
子どもの  
安全を守る  
ために！  
おさえておきたい41のQ&A  
これ1冊で不審者対策は万全！  
光文書院

B5判・112ページ 定価：本体 1,239円＋税  
ISBN978-4-7706-1038-6

## こどもと保健

No.87

定価 80円 (税込)



学ぶことが好きになる。

光文書院

発行日 平成 27年 1月 30日発行

発行者 長谷川知彦

発行所 株式会社光文書院

〒102-0076 東京都千代田区五番町 14

TEL 03-3262-3271

URL <http://www.kobun.co.jp/>

表紙デザイン  
イトウコウヘイ

組版・製版・印刷  
(株)木元省美堂